東奥日報社提供

東　奥　日　報
2021年（令和3年）11月9日（火曜日）（14）

院内感染防止へ空調検証

新型コロナ感染症専用病棟で空調検証実験を行う浅川准教授（右から2人目）と医師ら

八戸平和病院、八工大が協力

コロナ病棟の安全性確認

八戸

八戸市の八戸平和病院はこのほど、八戸工業大学の協力を得て、新型コロナウイルス感染症患者が入院する専用病棟の空調設備を検証する試験を行った。患者が発生させたウイルスを含む飛沫が適切に換気されるかを確認し、院内感染防止対策に役立てる。

同病院は、市内で夏場にコロナ感染者が急増したことを受け、透析のため通院している患者が感染した場合、院内で受け入れる態勢を検討。9月中旬、総合診療科病棟の4床をコロナ専用病床に転換した。

しかし病棟が築30年以上経過しているため、換気装置が適切に作動しているかを検証し、必要に応じて対策を取る方針。院内の安全性を高め、患者や医療従事者の安心につなげる狙いがある。

検証実験は、八工大機械工学科の浅川拓克准教授と土木建築工学科の小藤一樹准教授が行った。

病棟の廊下や病室内で機材を使って人工的に蒸気を発生させ、感染者が出したエーロゾル（微粒子）に見立てた蒸気の流れや換気状況を、高精度の微粒子モニターを使って確認した。

同病院の濵田和一郎院長は「実験により安全性を確認し、患者にも医療従事者にも感染リスクが少ないことを周知したい。この取り組みが地域のコロナ医療に少しでも役立てば」と話した。

（千葉真由美）

※「この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」